

イチャリバチョーデー

那覇市立 天久小学校
3年生 多和田 美月

沖縄には、とても多くの観光客がきます。それは、どうしてでしょうか。夏はり島の青い海、冬はあたたかさを求めて、そしてほかの県とは、少しちがう沖縄料理、ゴーヤーチャンプルー、沖縄そば、アシティビチなどは、今は日本中の人に知られています。でも、外国の人やほかの県の人に、沖縄に何度も来たいと思わせているのは、沖縄の人が「フレンドリー」だからだとお母さんが教えてくれました。私は、しばらくすると、その「フレンドリー」というものを体験することができました。おばあちゃんが、いつものように弟2人をむかえて、私を学童までむかえにきて帰る途中のことでした。「すいませーん。」という声で、ふり返ると2人のおばあちゃんが立っていました。「新都心の食彩館って、どこですか。」と聞いてきました。おばあちゃんは、「ここをまっすぐ行って左に曲がって…」とか教えていましたが、あまり分かっていないようなので「タクシーに乗った方がいいかもしれませんね、少しきよりがありますから。」と言ったら、「そうですね、ありがとうございます。」と言って別れました。私たちの車がちゅう車場から出ておばあさんたちを見たら、手を上げてタクシーには人が乗っていて、なかなか止める事ができないでいました。しばらく様子を見ていたおばあちゃんは、「みつきちちゃん、少し遠回りしてもいい？」と聞きました。私は「うん、いいよ。」と言いました。うしろの弟たちには「お月様がきれいだから、少しドライブしようね。」と言っていました。弟たちは、「やったー。」と大喜びでした。そしておばあちゃんの車は2人のおばあちゃんたちのそばにスーっと止まって、「食彩館は、家に帰る途中ですのでよかったですどうぞ」と言いました。2人はとてもビックリしていましたが、とても喜んで何度もお礼を言いながら、車に乗りました。私のおばあちゃんよりも、とても年上に見えた2人は、友だち同志で一人は前に沖縄に来た時そこに連れてきてもらって、とても気に入って、今度は、自分の友だちも、ぜひ連れていきたいと思ったそうです。2人は岡山といばらきから来たそうです。おばあちゃんたち3人の話を聞きながら、私はジーンズの岡山と、なっとうのいばらきだと思いうかびました。いつもは、うしろでさわいでいる弟たちは、「いくつ？」とか「おなまえは？」とか聞かれて、カチンコチンになって答えていました。おばあちゃんたちは、「良かったらお名前と住所を教えてください。」といいましたが、おばあちゃんは、「いえいえ、ついでですから。どうぞ早くお食事を楽しんで来てください。」と言って教えませんでした。おばあちゃんたちは車をおりても車が見えなくなるまでずっと頭をさげていました。そして帰り道みんなで見上げたお月様は何だか笑っているように見えました。